

高校訪問における山梨大学アドミッションセンターの役割

——山梨大学の事例——

齊藤 太郎（山梨大学）

これまで山梨大学の高校訪問は、各学部の方針によって検討と実施がされてきた。しかしながら、高校からの事後アンケートの中には、同じ大学でありながら、それぞれの学部と別々に連絡や調整を行うことに疑問や簡略化を求める意見が多く挙がっていた。そこで 2023 年度、山梨大学アドミッションセンターがコーディネート役となって、複数学部が同時に訪問できるよう高校へのアンケートや大学各学部との情報共有をしながら、調整と実施を行った。その結果、複数学部同時訪問や生徒対象の訪問を高校が望んでいることが明らかとなり、今後のコーディネートも終始アドミッションセンターの役割として、高校側からも大学各学部からも望まれていることを報告する。

キーワード：高校訪問、山梨大学アドミッションセンター、役割

1 はじめに

山梨大学（以下本学）の入試広報は、入試課やアドミッションセンターが中心となって、本学アドミッション委員会での企画、提案を行い、そこでの承認を得て実施をしている。

アドミッション委員会における入試広報の提案では、例年基本的に「県内高校訪問」、「県外高校訪問」、「山梨県外での地域説明会」、「業者主催進学説明会」、「オープンキャンパス」、「大学見学」についてそれぞれ項目に分けて提案を行っている。

特に「県内の高校訪問」では、2022 年度までは各学部の方針に基づき各高校に連絡や調整を行い訪問の実施を行っていた。そのため、学部によっては高校の進路担当者のみの訪問を行う学部もあれば、生徒向け説明会を開催する学部もあった。また、学部によっては学科ごとに再度高校訪問を実施していた報告もあり、高校訪問に関する方法が統一されていなかった。

そんな中、本学アドミッションセンターが調査した高校からのアンケートの中には、同じ大学でありながら、それぞれの学部と別々に連絡や調整を行うことに疑問や簡略化を求める意見が多く挙がっていた。また、中島（2019）の他学での高校訪問についての報告では、「教育・研究活動において、学生がどのような取り組みをしているかの事例を通して、大学間の比較や強みの把握を行いたいと考えているが、実際にはそうした情報がほとんど提供されず、訪問に失望している」と高校現場からの意見が述べられており、大学による高校訪問そのものの課題も明らかとなっている。

そこで 2022 年度のアドミッション委員会において、2023 年度より、アドミッションセンターがコーディネ

ート役となって、県内全ての高等学校への本学教員による高校訪問に関するアンケートを実施し、本学全学部（医学部医学科を除く）とのコーディネート役を行う提案を行い、承認を得て実施をした。本報告では、高校訪問を通してアドミッションセンターが行った役割を整理し、実際に新たな方法で高校訪問を行った結果、高校側の意見や各学部からの意見をまとめることで、2024 年度に向けた高校訪問に向けた実施課題や方向性について検討を行った。

2 高校訪問の実施までの道のり

2.1 アドミッション委員会での承認

高校訪問の詳細の流れについては、アドミッションセンターが主催するアドミッション委員会での承認を得て実施されている。高校訪問については、2022 年 12 月のアドミッション委員会審議事項として提案、その後各学部からの意見照会期間を経て、2023 年 3 月で再提案、さらに各学部からの最終的な意見をもとに修正を行い 2023 年 4 月に決定された。図 1 は決定された 2023 年度の高校訪問の流れである。アドミッションセンターで県内各高校向けのアンケートを作成し、4 月に配布。5 月上旬までに集計し、各学部の情報共有し、各学部訪問可能先の検討を 6 月までに行う。その後単独学部で参加する学部は直接高校と調整を行い、複数学部で訪問する場合は担当学部を決定し高校と調整して各学部と情報共有しながら高校訪問を行っていく流れとなった。

2.2 アンケートの作成と送付

アンケートの作成はアドミッションセンターで行った。高校に対して訪問を希望するか否か、さらに各学

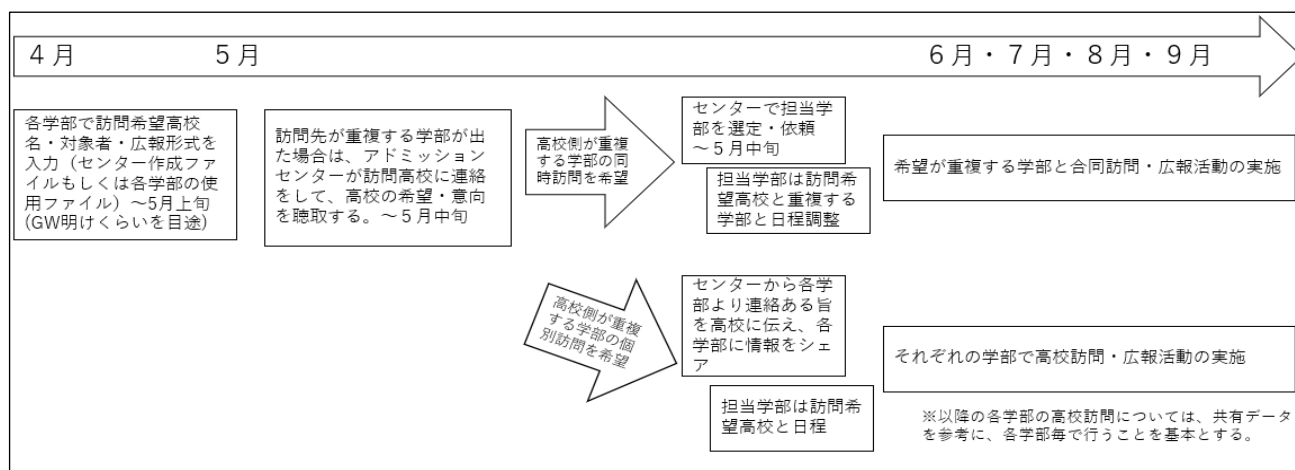


図1 2023年度高校訪問の流れ

部別々に訪問希望か、複数学部同時に訪問希望であるかをはじめ、訪問に向けた諸情報の収集を行った。また、これまで各学部で行っていた高校訪問では、高校の進路指導担当教員との面談のみで終了する学部と、生徒への学部案内や説明を行う学部が存在したため、訪問対象についてもアンケート項目に入れた。アンケートでは以下の項目を設定した。

1. 山梨大学教員による訪問の希望、2. 訪問時期、3. どの学部の教員による訪問を希望か（複数回答可）、4. 複数学部同時での訪問を希望か、5. 訪問の際、本学への進学を考える生徒へ説明を希望するか、6. 説明はどの程度の時間か、7. 本学に関して知りたい事項、8. その他、意見、とした。

アンケートの送付については、高校の進路担当の分掌が4月1日より変更となることがあるため、4月早々に、本学入試課に依頼し、県内すべての高校に依頼文とアンケートを郵送した。

なおアンケートの期限は5月連休明けに設定し、回答はGoogle Formsを活用して依頼を行った。

2.3 アンケート回答状況

回答率は68.3%（41校中28校）であった。内75%にあたる21校が本学教員による高校訪問を希望していた。また、訪問希望高校の内57.9%にあたる11校が複数学部同時に訪問を希望しており、本学に対する意見として挙がっていた複数学部同時での訪問希望が実際に多いことが明らかとなった。また、図2の通り、「生徒」や「教員や生徒」を訪問対象として希望したのは80%を上回ったことから、生徒に直接本学学部の案内や説明を求めていることがわかった。

2.4 アンケート回答集計と学部報告

締め切りとなったアンケートは速やかに集計し、それぞれの学部に希望のあった高校と希望日程をまとめ

たデータの情報伝達を行った。その後各学部で2週間程の検討期間を設けた上で、5月下旬までに再度訪問可能な高校を示しアドミッションセンターまで報告を依頼した。

2.5 担当学部の設定

各学部に依頼した報告が出そう間、ある学部から問い合わせもあった。「生徒に対しての訪問は準備が難しい」、「昨年まで訪問していた高校から希望がないが、学部独自で訪問してよいのか」、「複数学部訪問の際、他学部や高校との連絡調整を行う担当学部の負担が大きくないか、公平に振り分けられるか」等である。生徒に対しての説明については、希望する生徒がいる以上お願いしたいがどうしても説明が難しい場合、アドミッションセンターから概要について生徒に説明することで確認をした。高校から希望がなかった場合については、既にアドミッション委員会で提案の通り、本高校訪問での訪問を終えたのち各学部裁量で独自に訪問調整を行ってもらうことを確認した。また、担当学部については、負担の偏りがないようアドミッションセンターで調整する確認を行った。いずれにしても、アドミッション委員会の提案から、今年度は初

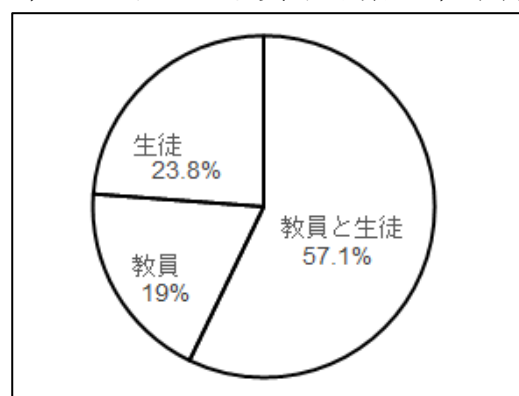


図2 説明対象希望アンケート結果

の試みであり協力を依頼する旨各学部伝えてきたつもりであったが、アドミッション委員会での採決が各学部の広報委員会にまで行き届かなかつたり、引き継ぎが行われていなかったりしたことが明らかとなり今後に向けての課題が残った。

また、ある学部は学部の事情から全高校に対し訪問をせずに、改めて秋季以降での訪問を行う報告がなされた。同一步調で試行が行えなかったことも課題として残った。

その後各学部で報告された訪問可能高校をまとめた上で、負担の偏りがないよう担当学部を設定し、改めて担当学部の報告を各学部に行った。また同時に各訪問希望高校に対して、担当学部の担当者から別途連絡がきて、最終的な当日の詳細について調整してもらいたい旨連絡を行った。

過去に活用してきた、訪問時の調整内容リスト（集合時間・場所、プロジェクター使用の可否、駐車場の有無など）を活用し、各学部の担当者から円滑に各高校との調整もでき、複数学部間連絡も順調に進み、訪問当日を迎えられることとなった。

3 高校訪問の実施とその後の反応

3.1 訪問高校概要

最終的に訪問調整ができ、訪問できた高校は 18 校となり、延べ 37 学部が訪問を行った。内 1 校は感染症の影響で延期となったが、その後も担当学部による調整が円滑に進み、実施することができた。

8 月上旬に本学で毎年行われているオープンキャンパス前までに訪問を行った高校がほとんどであり、高校訪問での各学部の説明や案内に加えて、オープンキャンパスへの参加も呼び掛けることができ、その場でチラシの配布も行うことができた。このことからオープンキャンパス前に高校訪問を行うことの時期設定が有効であるとも示唆された。

3.2 高校の様子

アドミッションセンターにおいても、高校訪問の様子や高校の進路担当へのご挨拶で多くの高校訪問に同行させてもらい、様子を伺った。訪問した高校では、いずれも事前に希望していた教員や生徒が本学各学部の説明や案内に参加する体制を取っていた。高校によってはわずかな人数の参加もあったが、本学に興味がある生徒だけに、真剣に各学部の教員の説明を聞き、入試や学部に関する質疑応答が盛り上がる様子が見られた。高校生にとっては大学の教員に直接質問したり、相談したりできる機会は少なく、少人数の参加であるからこそより充実した時間を過ごせ、相談内容からも

本学志願をより明確なものにした生徒もいるのではないかと確信できた。

また、進路担当教員からは、他の学部と調整してもらえて助かった、という声を耳にすることもあり、高校訪問の体制を見直したことの成果が伺えた。アドミッションセンターからは訪問事後のアンケートを実施する旨も高校担当者に伝え、試行的に行っている高校訪問の今後の方向性を検討する上での高校現場の意見を収集する準備を高校訪問で行うことができた。

3.3 高校訪問事後アンケート

高校訪問後のアンケートについては、それぞれの高校ごとに訪問終了後に事後アンケートを実施した。アンケートは各高校の担当者宛にメールで依頼を送信し、Google Forms を用いて回答を依頼した。

回答率は 57.9%（訪問高校 19 校中 11 校）であった。

高校訪問実施形態については、来年度以降についても複数学部同時に訪問を実施して欲しい回答が、72.7%となった（図 3）。また、生徒を対象とした訪問については、「とてもよかった」「よかった」と回答が 100%となり、来年度も「生徒を対象」「教員と生徒を対象」と希望する高校が 90%を超える割合となった。このことから、高校現場においては、複数学部同時訪問や生徒対象とする高校訪問を求められていることが明らかとなった。さらに、アンケートの自由記述では高校側の大学教員による高校訪問の要望に関する傾向を表 1 の通りまとめることができた。具体的に自由記述での意見の中には、「来年度は生徒対象も実施したいと考えています」という意見があったなど、生徒を対象とした説明会を高校では強く望んでいることがわかった。そのため、来年度以降も引き続き生徒を対象にすることを前提とした高校訪問を実施することが望ましいと考えられた。一方で、「窓口をアドミッションセンターに絞っていただきたいと思いま

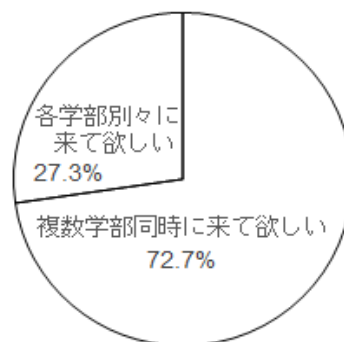


図 3 来年度以降訪問体制に関するアンケート

す」という意見も見られ、日程調整や訪問に向けた詳細な調整については、担当学部でなく、終始アドミッションセンターで行って欲しいという意見も目立った。そのため、各学部の状況も整理する中で、アンケートから訪問まで終始コーディネートとしてアドミッションセンターの役割を検討していくべきだと示唆された。

3.4 訪問後の各学部からの意見

訪問後の各学部からの意見は、各学部からアドミッションセンターに提出依頼した、「実施報告書（様式任意）」をもとに、整理した。

おおむね高校訪問での各学部入試広報の充実した状況がうかがえた。また、オープンキャンパス参加を決意した高校生がいた振り返りも見られたことから、適切な時期に、さらに本学を知るきっかけを高校訪問で行えたことは成果に値すると考えられる。

また、複数学部と同時訪問することで、高校側も、大学側も負担の軽減が図れたという意見も見られた一方で、担当学部の負担が大きい意見が目立った。大学と高校との終始コーディネートについては、高校からの意見でも課題となっていたため、各学部からの意見を踏まえ、来年度はアンケートから実施に至るまでのコーディネートをアドミッションセンターで行っていく必要性が新たな課題となった。

3.5 アドバイザーとの意見交換

本学アドミッションセンターでは、アドミッションセンター業務遂行のために、元高校教諭や、現場での

管理職や行政職を歴任経験のある、アドミッションアドバイザーを委嘱している。来年度の高校訪問実施にあたり、アドバイザー2名と意見交換を行った。これまで一部学部や学科の高校訪問では、主に進路担当の教員とのみ入試広報を行ってきた経緯があったが、直接生徒や保護者に直接訴える必要性和、生徒が進路の方向性を決定していく夏までに広報活動を重点的に行うべき助言をいただいた。特に保護者の参加の観点はいこれまでの高校訪問になかったことから、今後に向けた重要な検討事項となった。

4 まとめと 2024 年度高校訪問実施に向けた状況

2023 年に実施した高校訪問を振り返り、高校訪問の成果と課題を以下にまとめた。

- ・複数学部での訪問を求めている高校が多かった。一方で、連絡調整は一貫して同じ窓口で行って欲しい要望が高校側も大学側も意見が多く見られた。
- ・生徒を対象にした訪問希望が多く、来年度に向けても生徒対象を前提に訪問を実施していくべきである。また訪問時には、保護者の参加も検討していくべきである。
- ・高校訪問はできる限りオープンキャンパスまでに実施し、オープンキャンパスにつなげることで、より本学のことを知ってから志願する高校生が増えることを期待したい。

以上を踏まえて、2023 年 12 月のアドミッション委員会において、来年度以降も複数学部で訪問体制を整えていくこと、アドミッションセンターが終始窓口となって、コーディネート役をすることを主な提案として、審議事項で採決を得た。2024 年度の流れについては、図 4 の通りである。

表 1 高校訪問に関する自由記述回答の傾向

- ・大学での窓口をアドミッションセンターで統一して欲しい
- ・生徒対象の説明会を行って欲しい
- ・複数学部や学科が同時に来て欲しい

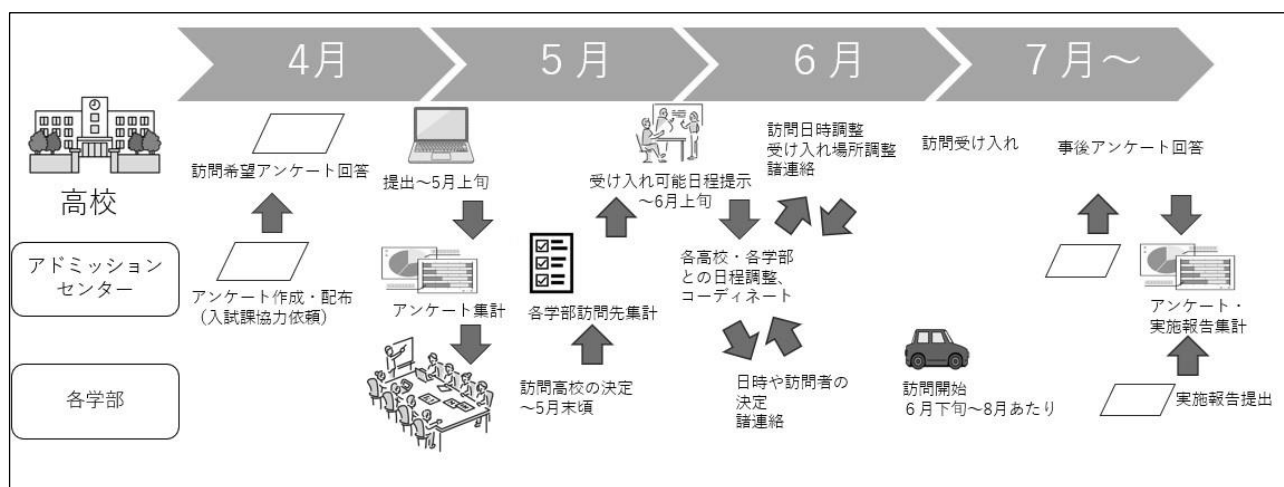


図 4 2024 年度高校訪問の流れ

5 おわりに

新たな方法で高校訪問を実施し、2年目を迎えた。2024年度はアドミッションセンターが終始調整役を行うことで、高校や本学各学部でも高校訪問のやり方が定着し、より本学に理解を示して志願を目指す高校生が増えることにつながっていくことを期待したい。そのためにも引き続き、高校側や本学各学部からの意見を収集し、常に高校現場や生徒に求められる高校訪問を継続していくことが重要である。

檜田ら（2020）は高校訪問について、「忌憚のない意見を高校教員との間で交換することが必要でありその記録を引き継ぐことが大切である。」と述べている通り、アドミッションセンターのみならず、実際に訪問を行った教員と高校間での情報を今後にも引き継いでいく体制作りも必要である。

参考文献

- 中島英博（2019）.「高校教員から見た大学による高校訪問」『名古屋高等教育研究』**19**, 99－114.
- 檜田豪利・宮本友弘・泉毅・庄司強（2020）.「高校訪問のデータベース開発」『大学入試研究ジャーナル』**30**, 174－178.